



だより

2014.9
第148号



暦は秋に近づいておりますが、厳しい暑さが続いております。皆様はいかがお過ごしでしょうか。今回は9月1日に開苑5周年を迎えましたガーデンフィールズとねり公園BigBellにスポットを当ててみたいと思います。管理者、介護副主任にお話を伺ってきました。

〈ガーデンフィールズとねり公園BigBell 5周年〉

○5周年を迎えていかがですか？

☆草野管理者→オープン当時、現在のサービス付き高齢者向け住宅(旧高齢者専用賃貸住宅)は他にあまり無かった為、手探りの状態からのスタートでした。現在は競合施設も増え、切磋琢磨しながらやっております。建物の状況や制度が変わる事によって、入居者様の生活に影響を及ぼさないように考えてきた5年間でした。

☆藤野副主任→開設時から介護職員として働かせて頂き5年間。嬉しかった事、大変だった事が多くあり、あっという間でした。これからも初心を忘れず、ご利用者様の笑顔を大切に出来る明昭の介護職員の一員として、働いていきたいと思っております。

○介護に対する思いを教えてください。

☆草野管理者→私がサービス付き高齢者向け住宅の管理者として配属された時から考えていることは入居者様に「今を生きて頂きたい」という事です。ガーデンフィールズのサービスと外部サービス、地域資源を適切に活用し様々なニーズに対応していきたいと思っております。自由度の高い住宅系サービスと安心度の高い施設系サービスをうまく融合し入居者様に



に生き活きたした生活を送って頂けるよう取り組んで参ります。

☆藤野副主任→どのような場面においてもいつも入居者様の立場に立ち、笑顔と優しさと思いやりを忘れず安心かつ丁寧な介護にあたっ行ってきたいと思っております。

←ガーデンフィールズとねり公園BigBellの素敵な仲間達



↑ 藤野副主任と草野管理者

ハートランド相談室

TEL 0120-84-8105 FAX 03-3850-1581

特定施設入居者生活介護:

ハートランド明生苑/竹の塚明生苑/竹の塚明生苑六月/ふちえ明生苑/まちや明生苑/篠崎明生苑
かさい明生苑/篠崎明生苑Ⅱ/輝明生苑しのざき/えど川明生苑/草加明生苑/ハートランド川口明生苑
大宮明生苑/グランヴィ川口/グランヴィ歳王/グランヴィ神楽坂/すみだ明生苑/松戸めいせい
蒲生めいせい/白小鳩めいせい

認知症対応型共同生活介護:

グループホーム竹

短期入所生活介護:

草加明生苑(併設)/輝明生苑しのざき(併設)

デイサービス:

草加明生苑(併設)/ふちえ明生苑(併設)/まちや明生苑(併設)/ハートランド川口明生苑(併設)
大宮明生苑(併設)/グランヴィ川口(併設)/えど川明生苑(併設)

サービス付き高齢者向け住宅:

ガーデンフィールズとねり公園BigBell/ガーデンフィールズ六木/ガーデンフィールズ花畑
ガーデンフィールズ竹の塚/ガーデンフィールズふちえ



シリーズ 介護の現場から vol.4



「シリーズ 介護の現場から」認知症ケアについて考える。 四回目の今号も、皆様と認知症について考えてみたいと思います。認知症の原疾患として、脳梗塞や脳出血といった脳卒中や、いつから発病したのかわかりにくいアルツハイマー病は皆さんもご存じのことと思いますが、レビー小体型を原疾患とする「レビー小体型認知症」というのはご存じでしょうか?レビー小体型認知症とは脳の神経細胞の中にレビー小体が現れる病気で、現在は「脳血管性認知症」「アルツハイマー型認知症」とともに、3大認知症と言われるまでになり介護の現場でも一般的になりつつあります。大きな特徴としては、直接的な記憶の障害に拘わらない部分での障害が出る事が多く家族や介護者を困らせてしまいます。中でも「幻視」「誤認妄想」「認知機能の動揺」「パーキンソン症状」など顕著に現れるケースがあります。「幻視」とは、実際には目の前にないものが見えていると言う場合や全くあらぬ方向を向いて独り言(独語)を言っていたりするケースがあります。

「誤認妄想」は、時間的な理解ができずに、既に亡くなっている人を生きていると言ってみたり、自分がまだ学生だと思っていたり、退職しているにも関わらず、まだ仕事をしていると思っていたりといった具合です。「認知機能の動揺」とは、トイレの場所がわからなくなったり、薬の管理ができなくなったりします。

「パーキンソン症状」とは、パーキンソン病患者にみられるような症状として、動作が緩慢になる、前かがみになる、小刻み歩行となるといったことが現れます。その他にも、睡眠中に突然大声を出す、睡眠中に歩き出すといったレム睡眠行動障害などもあります。

このような「レビー小体型認知症」の方は、意識や感覚が比較的しっかりしているときと、まるで別人のように無表情となりボーっとしているときが入れ替わりに起こることがあります。介護者は、今がどちらのときなのか?把握し、適切なときに声掛けや見守りを行う必要があります。特に幻視が発症した場合は、介護者は否定せず、今なにがどのように見えているのか注意深く話を聞いて、共感し、安心していただく事が大切です。もし、否定してしまうと、より一層幻視の症状が悪化したり、他の精神症状(うつ症状等)を出現させてしまうきっかけにもなりかねません。また、症状が激しくなる場合もあり、慎重な対応が必要です。



認知症ケア専門士 西岡伸介